

社会福祉法人 仙台市社会事業協会

“令和２年 仕事始め式”

《新年のご挨拶》

P 2 ～ 3 . 会長、副会長、事務局長のご挨拶

～高齢者福祉事業～

P 3 . 養護老人ホーム 仙台長生園
特定施設 仙台長生園

P 3 ～ 8 . 仙台楽生園ユニットケア施設群
《特別養護老人ホーム仙台楽生園、葉山地域交流プラザ、グループホーム楽庵、葉山地域包括支援センター、ケアハウス創快館、仙台楽生園短期入所事業所、楽園デイサービスセンターいこい・なごみ、葉山ケアプランセンター、葉山ヘルパーセンター》

P 8 ～ 9 . 沖野老人福祉センター、沖野デイサービスセンター、沖野居宅介護支援センター

～児童福祉事業～

P 9 ～ 1 0 . 仙台保育園
P 1 0 . 柏木保育園
P 1 0 ～ 1 1 . 富沢わかば保育園
P 1 1 . 中山保育園

P 1 1 ～ 1 2 . 母子生活支援施設 仙台つばさ荘
P 1 2 . 母子生活支援施設 仙台むつみ荘

～教育事業～

P 1 2 ～ 1 3 . 仙台理容美容専門学校

《 令和 2 年 仙台市社会事業協会 新年のご挨拶 》

会 長 菅田 賢治

皆さん、明けましておめでとうございます。令和になって初めてのお正月は、天候にも恵まれそれほど寒くもなく、穏やかでゆっくり過ごされた事と思います。

さて令和 2 年は、母子生活支援施設仙台つばさ荘と柏木保育園の建物が築 42 年を迎え、母子生活支援施設仙台むつみ荘が築 35 年を迎える年になることから、改築計画を事業所の施設長や幹部職員を交え、仙台市行政とも相談しながら進めて行きたいと思っています。

また、当法人の大きな変革としては、仙台理容美容専門学校が学校法人化を目指しております。学校法人化に変わること、幾つかのメリットがあるため小野寺校長を中心に学校の職員が一生懸命頑張っているところです。法人としても、学校法人化に向けて全力で支援していきたいと考えております。児童部門と教育部門で大きな変化のある年ですので、皆様のご協力を是非お願いしたいと思っております。それから、令和 2 年度に向けても、新たな事業計画を各事業所で作成頂きながら進めていきたいと思っておりますので、重ねて職員の皆様のご協力ご助言、宜しくをお願いいたします。

副会長（業務執行理事） 佐々木薫

皆さん、明けましておめでとうございます。菅田会長からもお話があったように、色んな意味で変革が必要な年だと思います。日本全体で見ても、生産年齢人口が益々減少しており、一人がひとりの高齢者を支える時代になってきました。建物の老朽化に伴う修繕や制度の改正などもあり、これまでに比べ昨年から大きく変わってきました。我々は、その制度にも対応していかなければいけません。それには職員の皆さんの力が必要です。ぜひ一人ひとりの力を貸して頂きたい。

とくに 2020 年は子年でもあります。十二支の最初の年でもありますので、新たな気持ちで皆さんと一緒にスタートを切りたいと思っております。取り巻く社会状況も段々変わっていきますが、職員や施設形態もそれに合わせて変わっていかなくてはなりません。皆さんから情報を頂きながら進めていければと思っております。

また今年は、東京オリンピックの年です。その際は、是非パラリンピックの方にも目を向けて頂きたいと思えます。見て頂けたら分かりますが、障害が有りながらも一生懸命頑張っている姿は、我々の仕事のヒントにもなるかと思えます。彼らのたゆまぬ挑戦と努力にエネルギーを頂きながら、当法人の発展のためご協力頂ければと考えておりますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局長 小野寺 信也

謹賀新年、法人も令和になって初めての新年を迎えました。

今年は、何かが始まる予感がします。と言うより始まります。

法人の長期目標であるブランド化に向け、業務を進めて行きます。私見ですが、昨年 1 年を通して感じたことは、我が法人は、学生、養成校から評価を受け、優秀な職員、優秀な学生を育成していると考えられます。

法人が求人を行っていない学校の生徒が、保育園を見学して「園長、職員の保護者への対応が良く働かして欲しい」と採用試験を受け、仕事に不安を抱いていた養成校の学生を高齢者施設の副園長が対応したら、担当の先生から「学生の心に響いた、人生に影響を与えてくれた」と話し、実習先の依頼を受けています。また、昨年に引き続き、保育園長が叙勲し、理美容専門学校の学生が全国学生技術大会で優勝しています。

手前味噌になるのかもしれませんが、ブランド化に必要な内容が幾らか積みあげられているように感じます。

問題なのが、人手不足と施設環境の整備です。高齢者施設を中心に、採用試験を行っても受験者がなく、人手不足の状況が続いています。その対策のひとつとして、奨学金（学資）助成制度に関する規程が理事会で承認を受け、新年度採用の職員から援助を行うことになりました。職員の雇用については、人材確保対策委員会と協力して養成校と関係を保ち進めて行きます。

また、施設利用者の生活環境、働く職員の職場環境の整備を優先的に考えなければなりません。大規模修繕、建て替えが必要な施設があります。赤字事業所の見直しを含め、昨年、ヒアリングで各施設長から提案された中長期修繕計画を参考に進めて行きます。

老舗の暖簾にすぎらず吐故納新の精神で、時代の流れを見据え業務を行って参ります。

養護老人ホーム仙台長生園 特定施設仙台長生園

園長 佐藤 文彦

謹んで新年のお祝いを申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い致します。

養護老人ホームへの入所措置者数は全国的に低迷し、長生園も定員割れの状況が10年以上続いています。収支が赤字に転落した時期もありましたが、平成29年度の一般型特定施設への事業転換により介護報酬が増収となり、以降は定員割れの状況でも黒字収支を継続しています。経営の安定により、長年の懸案でありました長生園全90居室へのエアコン設置を昨年夏に実現することが出来ました。

また昨年は、10月に愛媛県で開催された全国老人福祉施設研究大会において、長生園の岡崎美佳副主任介護士の「罪を犯した高齢者を福祉で支える」と題した発表が最優秀賞を受賞しました。長生園が取り組んできた触法高齢者の受け入れが、養護老人ホームが担う重要な役割として認められたと自負しております。

そして昨年、厚生労働省から「養護老人ホームにおける契約入所の促進について」の通知が発出されました。定員の20%以内であれば、空床を活用して高齢者に限らず、居住に課題のある低所得者や障害者等の契約入所が認められることを自治体に通知し、地域共生社会を実現するうえで養護老人ホームが住まいの確保に向けた役割を果たしていくことを求めたものです。長生園としても、前向きに取り組むたいと考えております。

長生園は今年も、様々な課題を抱える高齢者の受け皿となるよう入所率向上を図り、経営の安定を継続させると共に、これまで行ってきた触法高齢者の受け入れに加え、新たに住宅確保要配慮者を対象とする契約入所の受け入れに取り組み、地域共生社会の実現に向けた役割を担えるよう準備を進め実践してまいりたいと思います。

今年もご指導ご支援の程、どうぞよろしくお願い致します。

《 令和2年 仙台楽生園ユニットケア施設群 新年の抱負 》

総括施設長 佐々木 薫

新年、明けましておめでとうございます。

仙台楽生園ユニットケア施設群は、都市型の地域密着大規模多機能の理念を实践すべく、介護保険10事業と地域交流プラザを運営し、相互に補完し合いしながら安定的な運営を維持してまいりました。しかし、これらの多様な事業を推進していくには、質の高い安定的な職員の

確保が必要となりますが、全国的な課題でもある人材不足は深刻です。当法人においても人材確保や人材育成、キャリアパス制度の確立などを最優先に考えていかなければなりません。

ここ数年は、介護職員を確保するための人件費等の増加もあって経営的には大変厳しいものがあり、仙台楽生園ユニットケア施設群の理念でもある地域貢献事業や総合福祉サービスの提供が難しくなっています。葉山訪問看護センターでは、退職で職員の補充ができず現在は休止の状況になっています。このまま職員を確保できなければ、事業の廃止も考えられる時期に来ています。ケアハウス創快館は、介護職員の適正配置で職員の増員を求められており経営的には厳しい状況にあります。早い時期に、ケアハウスよりも少ない職員で運営ができ、収支の改善が図れるものに事業転換していきたいと考えています。

去年は、休止していた葉山デイサービスセンターに葉山地域包括支援センターを移行して、新たに「荒巻支え合いセンター」を設置しました。地域住民と協力しながら「地域包括ケアシステム」の構築を推進してまいりましたが、目に見える成果はまだ不十分な状態です。

これからも、全職員が知恵を出し合い全事業所が連携して経営効率を高め、サービスの質の向上を図って行くことと、更なる地域連携体制が構築できるように努力してまいります。地域共生社会の実現を目指し、公益的な事業として社会から評価されるように、より一層、地域住民に還元できるよう福祉事業の推進と社会貢献に力を注いでまいりたいと考えています。

《 各事業所 新年の抱負 》

特別養護老人ホーム仙台楽生園

園 長 佐々木 薫

当園は、昭和62年4月開設の従来型（多床室）施設と、平成17年12月に開所した6階建ての高齢者総合福祉施設の中核をなす、ユニット型（個室）施設の特別養護老人ホーム（指定介護老人福祉施設）です。従来型はこの4月に33周年、ユニット型（個室）施設は、去年の12月1日をもちまして、おかげ様で14周年を迎えることが出来ました。

ここ数年来、“介護職員の確保”に苦悩している現実が長く続いております。介護保険制度上では、介護報酬改定は微増ですが引き上げられた結果となりましたが、介護職員の人材確保では、介護の養成校にも生徒数が少なく職員募集しても成果がみられない。またハローワークに求人を出しても募集がないため派遣職員を採用する。更には紹介手数料を支払い派遣職員から直接雇用に切り替えて介護人材を確保するなど、人件費が膨らみ経営上としては厳しい状況が続いています。

また昨今では、日本人の介護職員確保の厳しい状況からも、外国人介護人材の労働力が期待されております。当施設の現状では受け入れは未定ですが、外国人介護人材の情報や検討が必要な時期と考えております。いずれにせよ、“政治の力”により、“介護の世界”を守ることと職員の確保と併せ、利用者へのサービスの質の担保が約束されることを期待し「安心につながる社会保障」を現実のものにして欲しいと願っております。

運営面では、要介護3以上の入所要件が原則あることで、中重度の要介護者を支える施設としての機能を果たしております。介護人材の不足から生じる現場職員への負担増と併せ、介護人材の“教育・育成”が重要な課題であることを改めて強く認識します。

また「地域包括ケアシステム」の構築から地域貢献の役割を模索しながらも更に「理念」を念頭に健全な運営努力を実践し、多職種との連携と併せて職員一人一人が「想造・実行・成長」することにより、より質の高いサービス提供を実践したいと思っております。最後に、安心・安全な“生活の場”として、選ばれる施設づくりを目指して推進して参ります。

葉山地域交流プラザ

館長 佐々木 薫

地域交流事業の年間延利用者数、約 17,200 人の内、喫茶レストラン「茶楽」は約 4,300 人、展望風呂「天空館」は約 5,460 人、理美容室「g g バーバー・美楽る」は約 1,300 人、葉山予防リハビリセンターは約 390 人、葉山の森おもちゃ図書館は約 520 人、地域交流プラザホール利用者は約 2,500 人、ボランティア活動センターは約 1,780 人、その他の地域支援・地域交流事業が約 840 人、オレンジカフェは約 100 名の認知症の人や家族、関係者の皆様に参加をいただいております。

昨年の 4 月より喫茶レストラン「茶楽」の委託先が、日清医療食品㈱から一般社団法人パーソナルサポートセンターに変更となり、仙台市生活自立・仕事相談センター“わんすてっぷ”による生活困窮者の就労準備支援にも関わっています。夏祭りの際は模擬店で協力いただくなど、新たな試みも行うことができました。また、地域支援・地域交流事業については、県外その他施設と相互で見学会を実施し、今後の取り組みに繋がる有益な情報交換を行うことができました。

各サービスをご利用いただいているお客様の定着化は確実に図られている反面、開設から 14 年が経過し固定客の高齢化も否めない現状です。利用者も徐々に減少傾向にありますので、今後は新規利用客の獲得が課題となると考えています。地域の皆様に楽しく安心してご利用いただくために、新たな企画やサービスを展開し、地域支援・地域貢献に重点を置いた内容の充実に努め、共生社会の実現の一助になるように努力して参ります。

グループホーム楽庵

施設長 佐々木 薫

「令和」という新しい時代を迎えたグループホーム楽庵は、安穏とした日々の継続を果たした 1 年であったかと感じております。変化の少ない日々を作り出すことは、一見、安易なようにも見えますが、ひとりひとりの職員が同じ地点に主眼を置いて創り出す時間であり、専門性の賜物であると考えます。今年は平穏な毎日を創り出すスキルを「楽庵ブランド」として確立し、様々な発信を多方面に行っていきたいと思っております。

利用者においては、重度化・高齢化が前進し、終着点が視える面も多く感じられています。その中においても「そのひとらしく」を大切に、笑顔の多い時間を紡ぐことを重ねてきております。ご家族様・地域の皆様からのご理解とご協力に後押しをいただき、より「楽庵らしい」時間を創ることができたことも感じております。今年も地域や広域への「認知症の方を支える人」として、又「支える人を支える人」としての役割を果たすことに尽力してまいります。

職員体制においても、調整に柔軟性が求められる時代となったことを感じています。様々な形で職員の協力を得ながら、十分にスキルが発揮できる体制を整えてまいりたいと考えます。今まで受けた各方面からの評価を糧に、新しい時代に向けて、「変化させるもの」と「変えてはならないもの」を見極めていける現場教育を推進してまいります。

葉山地域包括支援センター

所 長 佐々木 薫

仙台市では、平成 30 年度より新たな「介護保険事業計画」が始まりました。仙台市の基本構想に掲げる「支えあう健やかな共生の都」を実現するために、「高齢者がその尊厳を保ち、健康で生きがいを感じながら、社会を支え続けるとともに、支援が必要になっても地域で安心して暮らす事が出来る社会の実現」をめざして活動してまいります。

具体的には、①健康で生きがいを感じながら活躍し続けられるために、介護予防・健康づくりに積極的に取り組めるよう推進していきます。②住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るために、高齢者の尊厳保持に向けた虐待防止や成年後見制度などの権利擁護の取り組みを進めます。また医療や介護などをはじめとする様々な専門職や関係機関などの連携を図っていきます。③認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続ける事が出来るよう、本人や家族目線での支援の充実に取り組むとともに、地域における認知症に対する理解を広め、認知症や家族を支える体制づくりを進めます。

本年は、上記の活動を更にブラッシュアップして、「地域共生社会の実現」と「地域包括ケアシステムの構築」を目指し活動してまいります。

ケアハウス創快館

施設長 小船 正明

ケアハウス創快館は、平成17年12月1日に創立し14周年を無事に迎えることが出来ました。この間御指導、御協力をいただきました全ての関係者の皆さんに心より感謝を申し上げます。また、これからも末永く御指導を賜りますようお願い致します。

さて、この1年間を振り返りますと創快館の入居者様の受け入れ体制には苦慮したものの、今生活している入居者様が元気に新年をお迎えしてくれたことに感謝するばかりであります。

運営面については、定員10名の創快館の収支は例年厳しい状況が継続しております。特にサ高住や有料老人ホーム等が隣接するなか、これまでより入居希望者も減少しております。また介護職員の人材確保が厳しい昨今、更に介護職員を1名増員し適正配置をするよう仙台市より求められている状況にあります。年々増加する人件費と収入のバランスを比較し、法人と相談しながら今後の運営体制を進めて参りたいと思っております。

サービス面では昨年度より職員が増員したことで、これまで以上に職員間の連携が高まり入居者個々へのサービスの充実と併せ、委員会等の目的（計画）、実行、評価の一連の取り組みについても成果が表れております。これからも基本理念である「創一自ら創造する」・「快一共に心地よい」・「館一住まいと生活」を職員が一丸となって提供し、安心・安全な生活環境を構築できるよう取組んで参りたいと思っております。

楽園デイサービスセンターいこい・なごみ

所長 天野 博美

楽園デイサービスセンターも開所から14年が経過しました。日々の活動においては、通所される利用者様が自宅での生活を維持・継続できるように取り組んで参りました。季節ごとに行われる、高齢者の皆様が馴染んで行ってきた行事を大切に行い、また、ご家族様にも参加し楽しんでいただけるような行事を企画し実施してきました。

また、前年度から続けている児童公園の清掃活動は、少人数の参加ではありますが定着してきました。昨年は、町内会の行事に招待されるなど、近隣町内会との交流も始まっています。また、介護・福祉を担う後継者育成の観点から、体験学習や実習生等の受け入れだけでなく、近隣の小中学校に出向いて認知症サポーター養成講座も継続することができました。今後は、内容の充実を目標に掲げ実施してゆきたいと思います。更に、こちらから出向くばかりではなく、デイサービスセンターを利用していただく皆さんと、小中学校の子ども達、地域の方々との交流活動が活発になることを目指してまいります。

今年もご利用者様、ご家族様が、安心して楽園デイサービスセンターを利用していただけるよう取り組み、また地域に向けて、地域密着型通所介護事業所としての役割を果たせるように、今後も近隣の方々、関係機関、小中学校などと連携を深め、地域に根差した事業所となれ

るよう努力してまいります。

近隣の通所介護事業所との差別化を図り、選ばれる事業所となるために、認知症高齢者の脳機能の維持、改善、認知症予防に繋がるよう、今後も更なる向上を目指すと共に、医療的ニーズや個別ニーズにきめ細やかに応えられるよう努力してゆきます。

葉山ケアプランセンター

所 長 天野 博美

葉山ケアプランセンターは『信頼と安心』を理念に掲げ、当センターを利用いただくご利用者様・ご家族様に住み慣れた地域での生活を、安心して継続していただけるように支援してまいりました。ケアプランセンターは高齢者部門において、新規利用者の獲得窓口としての役割を担っており、地域包括支援センターと並んで地域包括ケアシステムのコーディネート役を期待されている要の事業所でもあります。

我々ケアプランセンターも開所から14年が経過し、地域に根差した事業所として活動を継続しておりますが、ご利用者様・ご家族様との信頼関係を更に深めてゆく為に、年に一度アンケート調査を実施しております。昨年も実施し、その評価は概ね良好の評価を頂いたと思っております。昨年は一昨年のアンケートの結果をもとに、ご利用者様に向けて、高齢者に関する施設を分かりやすく一覧にして配布したり、高齢者を介護する方々が、障がいを持つ家族と一緒にでも、気軽に足を運ぶことができるような施設を紹介しました。

介護支援専門員の役割は、地域で生活されるご利用者様が、長年培ってきた生活を継続させ、住み慣れた地域の中で安心して在宅での生活を継続できるように支援してゆく事です。いつでも地域の皆様に気軽に相談していただけるよう、又皆様から身近にいるケアマネージャーと思って頂けるよう、在宅介護の相談支援機関として、その役割を果たしていきたいと考えています。

葉山ヘルパーセンター（介護部門・障害部門）

所 長 天野 博美

葉山ヘルパーセンターは、皆様のお力添えで、開所から14年が経過しました。地域に生活されるご利用者様の、途切れることのない生活をお手伝いさせて頂いております。

平成30年度に開始した『総合事業』は、徐々に利用者数が増えている状況にあります。お元気なご利用者様の生活のお手伝いを、一つ一つ丁寧に行ってゆくことがご利用者様のニーズに応えることと、日々努力しております。

障がい部門においても、利用のニーズも増えてきており、社会的にも期待されている分野だと思います。登録ヘルパーとの調整を行いながら、柔軟に対応できるように取り組んでいます。

我がヘルパーセンターでは人材育成にも力を注いでおり、毎月勉強会を実施しております。それぞれが単独でケアを提供しなければならない在宅支援の現場では、不安に思うことも多くあると思います。月一度勉強会を実施することで知識の習得だけではなく、職員同士のコミュニケーションを深めることにも繋がっているのではないかと思いますので、今後も継続してゆきたいと思います。

昨年はヘルパーセンターも介護人材不足に悩まされた一年でした。常勤介護員の退職により、常勤介護員、登録ヘルパーの求人活動を継続しましたが採用に至らず、サービスの依頼を断らざるを得ない状況もみられておりました。今後も、介護における在宅支援の魅力を求職者に伝えることを地道に続け、介護に興味を持ち、同じ職場で一緒に働きたいと思ってくれる方を増やしてゆきたいと思います。

そして、高齢者であっても障がいを持つ方であっても、住み慣れた地域の中で安心して生活できるようにお手伝いを継続してゆきます。また、身近にいるヘルパーが在宅部門のつなぎ役となってゆけるように研鑽を重ねてゆきたいと思います。

沖野老人福祉センター

館 長 植木 祐子

新春のお慶び申し上げます。

昨年は、新しい令和の時代に相応しく、これまでにない新たな事業に取り組んで参りました。10月には、センター開設から29年目にして初めて民謡・詩吟・舞踊三教室コラボレーションによる合同発表会を開催して、教室の垣根を超えた利用者交流の機会とすることができました。また、男の料理教室として、男性利用者を対象とした介護予防と簡単手料理の講座を開催し好評を得た他、終活講座、絵手紙講座、歴史探訪等、利用者の皆様のご要望に応える形で新しい企画を開催して参りました。

また、前年度から引き続いて、市民センターとの共催事業である折り紙ボランティア養成講座を実施し、近隣の小学校や保育園、高齢者施設に出向いてのボランティア活動等、ボランティア育成にも力を入れて取り組みました。更に、沖野三施設合同研修会では仙台人権擁護委員協議会より講師をお招きし、権利擁護をテーマとして研修を行いました。併設の市民センター・児童館職員の方々にも参加いただき、職員の連携を深める場となりました。今年の2月には、障がい者サポーター養成講座として、高齢者以外の一般市民の方々にも参加いただける形で、実施予定の企画も控えております。

今後も地域福祉の拠点として、複合施設としてのメリットを生かしながら、高齢者のみならず子どもやそのご家族等、世代を超えて交流できる企画についても、積極的に展開してまいりたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

沖野デイサービスセンター

所 長 植木 祐子

前年度からプログラムを見直し、小グループでのストレッチや軽体操等の介護予防運動、口腔ケアの充実に継続的に取り組んでまいりました。また、趣味活動やレクリエーションでは利用者おひとりおひとりがいきいきとお過ごしいただけるよう、サポートしてまいりました。その中で、デイサービスと老人福祉センター利用者の皆様の協力のもと、長く休眠状態にあった庭を「沖野農園」として蘇らせ、きゅうりやミニトマト、ナス、ゴーヤなど、野菜を育て収穫する楽しみを味わうことができました。また、農家を営まれるご家族様より季節の野菜等をお裾分けいただく機会もあり、ピクルスやおやつ作りも1年を通して楽しんでいただきました。

かねてより仙台保育園の子ども達との交流会を年4回開催していましたが、一昨年には地元沖野東小学校の児童の皆さんとの交流もスタートし、夏祭りや学習発表会にお招きいただいた他、デイサービスでの敬老のお祝い会に合わせ、2年連続で合奏団の演奏をご披露いただきました。子ども達には利用者の皆様が製作された作品をプレゼントし、互いに心に残る交流が図れました。こうした活動の様子は毎月発行する広報誌の他、HPブログにも定期的にアップしていますので、是非ご覧ください。

前年度から引き続き、衛生管理、リスクマネジメント、業務推進・改善の三つの委員会を隔月で開催した他、月1回カンファレンスで日々のケア・サービスの点検と、更なる向上を目指して取組んでまいりました。また、介護保険の記録ソフトとタブレットの導入により、活動の様子や必要な情報について職員間で共有するに留まらず、ご家族様や担当ケアマネジャー等とも速やかに共有できるようになりました。

沖野のエリア内における多様な施設、サービス事業所の中にあって、厳しい経営を強いられている現状にありますが、地域の皆様との繋がりを大切にしながら、より多くの利用者様、ご家族様から選ばれる施設となりますよう今年も引き続き取組んでまいります。

沖野居宅介護支援センター

所 長 植木 祐子

当センターでは前年度から引き続き①ケアマネジメントの基本に基づく、一連の流れを確実に実行と関連書類を整備すること、②適切なアセスメントのもとサービスを総合的・効率的に提供すること、③沖野三施設及び地域の関係機関、行政、地域包括等多機関・多職種との連携を強化し相談援助機関としての役割を果たしていくこと、④苦情に関する体制を整備し、内容の把握や具体的な対応・相談等、適切かつ速やかに実行していくこと、⑤外部研修会等に積極的に参加し、介護支援専門員として研鑽を重ねていくこと、を重点目標に掲げ事業運営を行ってきました。

毎日の申し送りの他、週1回利用者情報やサービス提供上の課題を共有する機会として、会議を開催し、困難事例の情報共有や外部研修後の伝達研修にも取り組みました。

地域の関係機関等、多職種連携の取り組みとして、沖野圏域での「みまもりマップ・ケアパス委員会」に継続して参加し地域住民への認知症啓発活動を行ってきた他、管理者を中心に、関係機関で開催する研修会での事例発表、市民講座でのファシリテータ等の活動等、スキルアップに向けて積極的に取り組んできました。また、毎年11月3日に開催される沖野市民祭りに、事業所として初めて参加し、介護相談や福祉用具の紹介等行いました。今後もデイサービスや老人福祉センター職員と協力し、地域の皆様に広く知っていただけるよう努めたいと思います。

また、現体制になって初めての实地指導も11月に行われましたが、日々の実践を振り返り、ケアマネジメントの原点に戻って業務を整える機会をいただけたと捉えております。介護支援専門員2名体制の事業所ではありますが、これからも保健・医療・福祉等、多様な分野の方々と交流し信頼関係を築いていくこと、更に知見を広め着実に実践力を高めていくよう努めてまいります。

仙台保育園

園長 高野 誠

明けましておめでとうございます。昨年の10月より、3歳以上児の幼児教育・保育の無償化が始まり、年度の後半は、副食費の集金も始まり、その変化の対応に追われました。無償化に伴い、保護者の経済的負担は減ったものの、子どもの保育時間が延び保育士不足からくる保育士の労働荷重、そして何より子どもが家族で過ごす時間も減ってきているよ

うです。こう考えると、メリットよりもデメリットの方が大きいと考えるのは私だけでしょうか。

今、保育士不足は、保育界の最大の課題となっています。実際に保育士が足りず、園児の受け入れ人数を減らしている園も多数出てきました。社会事業協会においても新規採用者向けにアピールできるよう奨学金助成制度等が理事会で話し合われ人材確保対策に力を入れて下さっています。そして、同時に職員の離職予防と定着にも努めなければなりません。今いる職員を大事にし、新人を温かく迎え入れ育てる事が現場を守り保育の質を上げる事につながります。その主役である子どもが安心して質の高い保育の提供を受けられる環境を維持し、更に向上させて行かねばなりません。そのためには、職員が保育に専念出来る職場環境を作っていかなければなりません。主任を中心とした常に学び合いながら向上をしていく職員集団作りのためにも、どのように意識づけ、同じ方向を向かせ、自分が持つクラスや職務だけでなく組織という観点から保育園や保育を考えていかなければなりません。毎年、同様になりますが、仙台保育園は、休日保育や病児・病後児保育を行っているからこそ、お互いを意識し合い、カバーし合い、つながりを大事にする保育が必要なのです。

制度等の変化に躍らせられずに、常に基本に立ち返る、そんな年にしていきたいものです。どうぞ、今年もよろしくお願いいたします。

柏木保育園

園長 高橋 すい子

新年おめでとうございます。干支も改まり始めの一步を踏み出しました。昨年5月には元号も令和と改まり新しい時代が到来いたしました。

昨年の10月から消費税増税に伴い幼児教育・保育の無償化が始まりました。保育業界を取り巻く環境や制度が大きく変化しておりますが、私たちは、制度の変革に左右されることなく、ご家庭への支援や保育の質の向上に向け取り組んでいくことであると認識しています。子どもの年齢に応じた特質や個性を的確に把握し、子どもらしく伸び伸び成長できるよう支援が求められます。「子どもの心身の根っ子を育てる」ことへの誇りを持ち、保育士として適正な支援をして行くために、研修や研鑽が必要です。積み上げ構築し柔軟な対応をする為のスキルを身に付け、状況に応じた判断と実践能力を発揮できるよう更に努めていきます。今年も職員集団が成長できるよう施設内外の研修への参加を積極的に進めていきます。

仙台市内でも沢山の保育所や小規模事業所などが設置されていることから、保育士不足が慢性化している中で、柏木保育園は充足されております。今後も働きやすい環境や職場を目指し、職員同士の関係性も維持してまいります。

一方で働き方改革が制度化されましたが、労働者が効率よく労働量と質を適正化し年休付与や有給休暇取得など、一人一人の職員が意識化できる様労働環境を整えていきます。この一年改革が進められて行く事になりますが、職員が力を合わせ軌道に乗れる様つとめていきます。本年もよろしくお願いいたします。

富沢わかば保育園

園長 庄子 美智子

年末年始は比較的暖かく陽も射し穏やかな年明けとなりました。保育園には久々に会った友達と顔を合わせて年始の挨拶をする、にぎやかな声が響いています。

昨年は、平成から新しい元号“令和”に変わった年で新しい時代の幕開けとなりました。一昨年同様、昨年也非常に自然災害の多い年で、10月の台風19号の台風被害はいまだ

爪痕が癒えず、県内では避難生活を余儀なくされておられる方もおいでかと思えます。このあたりは大きな被害はなかったものの、自然の驚異にはなにもなすすべがないことを思い知らされます。自然災害はますます増えると予想されます。自分たちの身に、いつ起きてもおかしくないという意識と備えをしっかりと持って、日々過ごしていかなければと思います。

今年は東京オリンピック・パラリンピックがあります。熱狂する日々が続くかと思えます。将来のオリンピック選手が出てくるかもしれません。楽しみでもあります。保育園は、子ども達が保育園に来ることが楽しいと思えるような保育を、一日一日を子ども達が生き生きと過ごし、主体的で思いやりのある子ども達に育ちますように、保育の質の向上を追求していきます。

富沢の地域に保育園を開園し、今年で29年目を迎えます。まわりには保育園がたくさん増えましたが、今まで以上に地域に開かれた保育園としての役割を果たせるように、保護者の方と共に今年もより良い保育園作りを行っていきます。ご協力よろしくお願い申し上げます。

新しい年を迎え、新たな気持ちで気持ちを引き締め保育に当たりたいと思えます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

中山保育園

園 長 櫻間 美智子

昨年に引き続き2020年も穏やかな幕開けとなった今年のお正月、皆様いかがお過ごしでしょうか(?)令和初めてのお正月休み明けの6日、子ども達が口々に覚えたての(?)「あけましておめでとうございます!!」の挨拶をしてくれ、穏やかで和やかない時間が流れている保育園です。今年のお正月休みは連続9連休という長いお休みで、休み明けの登園は渋り勝ち(?)という予想に反し、どの子も笑顔でお友達との再会を喜んでいる様子が伺え嬉しい限りです。「保育園に行くの楽しい!」「早く保育園に行って先生やお友達と遊びたい!」と言ってもらえる事が保育園として、何よりうれしく子ども達から最高のお年玉をもらったように思います。

令和がスタートした昨年は、保育制度が大きく変わり10月からの保育料の無償化も始まりこれらに伴う様々な変更、改定が続き、保育園はもとより保護者の皆様にも事務手続き等のご協力をいただきましたが、おかげさまで大きな混乱もなく乗り切ることができました。ありがとうございました。

少子高齢化が一段と加速し、年金を始めとする社会保障に関する見直しが始まろうとする令和の時代、これからどんな時代が始まるのかわかりませんが、経済ばかりが優先されるのではなく、人と人との関わりを大切にする中で、子ども時代を伸びやかで、そして楽しく過ごせるような時代であるように、今年も子ども達を真ん中に保護者の皆様、地域の方々と手を携え、歩んでいきたいと思えます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

仙台つばさ荘

施設長 菅田 賢治

新年、明けましておめでとうございます。

平成28年に児童福祉法が改正され、その理念が大きく変化いたしました。それは、家庭養育を最優先とし施設養育は、最終手段と位置づけられたのです。母子生活支援施設は、

戦後一貫して家庭養育のなかで、養育される子どもと養育を行う母親への支援を進めてきました。現在、都道府県では社会的養育の推進計画の策定に動いています。宮城県の推進計画には、母子生活支援施設の活用についてふれてもらう必要があります。昨年に引き続き今年も、その活動を強めてまいりたいと思います。また日々の支援事業推進に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

仙台むつみ荘

施設長 石道 久子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は入所世帯の入れ替わりが多く、現在約半数の世帯が昨年入所した家族です。様々な行事を通してコミュニケーションを図りながら楽しい思い出を作り、また、日々の会話の中で子育てや仕事の大変さや楽しさを分かち合いながら、過ごしやすいむつみ荘づくりをしていきたいと思っています。また、子どもの人数がここ数年で最も多くなりましたので、年齢や興味に合わせた遊びを通して、自分を表現しながら人間関係を学べるようにしていきます。

「産前・産後母子支援事業」に本格的に取り組んでいく時期に来おりますので、様々な関係機関と連携しながら準備を進めていきます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

仙台理容美容専門学校

校長 小野寺 光弘

新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり新年のご挨拶を申し上げます。

年号が「平成」から「令和」に変わり、新たな時代への幕開けの年となった昨年、新年号「令和」を迎えて最初の大会となる「第11回全国理容美容学生技術大会（理美容甲子園）東北地区大会」が7月30日にゼビオアリーナ仙台で開催され、本校学生18名（東北地区最多人数）が全国大会の切符を勝ち取りました。そして、11月19日地元宮城県総合運動公園総合体育館（セキスイハイムスーパーアリーナ）で開催された全国大会では、理容部門ワインディング競技で一昨年に続き金賞（第1位）を受賞し、全国大会2連覇を達成致しました。さらに、理容部門カット競技でも銅賞（第3位）を受賞し、教員・学生共に地元開催という大きなプレッシャーを感じながら、お陰様で昨年も好成績を収めることができました。今年の全国大会は、大阪府が会場（固定）となりますが、全国大会3連覇、その他の競技でも頂点を目指し、しっかり指導していきたいと思っています。

新年を迎えて本校の最大の課題は、18歳人口の減少による入学者の減少をいかにくい止めるかにあります。2017年に約120万人だった18歳人口が、2030年には100万人を割ろうとしています。さらにその後も減少の一途をたどり、2040年には80万人と現在より約40万人も減になり、学校運営が今後ますます厳しくなることが予想されます。当然ながら、理容・美容学校だけに限らず、他の分野の専門学校・短大・大学、そして企業も人材確保に必死であり、18歳人口の減少は日本全体の深刻な問題にもなっています。したがって、学校を存続させるためには何らかの思い切った改革が必要になります。目先の変化だけを見て対応するのではなく、もっと先の長期的な展望に立って考えていくことが大切になってきます。本校の将来の運営をどう展開していくか、どうすれば学校を存続できるか、変化していく理容・美容教育への対応は・・・など、課題は山積みですが、解決策を模索しながら進めていきたいと思っています。何れにせよ今年1年も厳しい状況であることは変わりありませんが、明るい出来事や結果にも期待しながら、何とかこ

の状況を少しでも改善できるよう教職員全員の力を一つにして頑張っていきたいと思
います。今年もどうぞよろしくお願い致します。